

**製品名: PAX6 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80859**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PAX6
別名	AN; AN2; MGDA; WAGR; D11S812E; MGC17209; PAX6
遺伝子 ID	5080.0
SwissProt ID	P26367
免疫原	大腸菌で発現したヒト PAX6 の精製された組み換え断片。

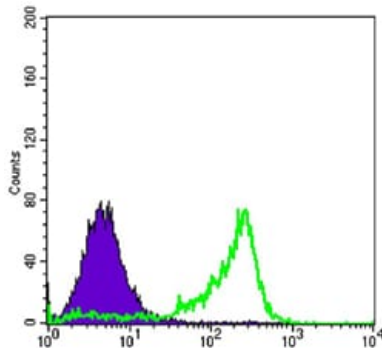
**背景**

眼、鼻、中枢神経系、膵臓の発達において重要な機能を持つ転写因子。膵島  $\alpha$  細胞の分化に必須。PAX6 は PAX 遺伝子の中で最も研究が進んでおり、文献では眼やその他の感覚器官、特定の神経組織や表皮組織、そして通常は外胚葉組織に由来するその他の相同構

造の発達における「マスターコントロール」遺伝子として広く言及されている。この転写因子は、異所性眼の種間誘導発現における利用で最もよく知られており、ヘテロ接合性変異体はヒトにおいて無虹彩症などの幅広い眼疾患を引き起こすため、医学的に重要である。この遺伝子は、ショウジョウバエ (*Drosophila melanogaster*) の遺伝子 *prd* の多くのヒト相同遺伝子の一つであるペアードボックス遺伝子6をコードしている。この遺伝子ファミリーの特徴である保存されたペアードボックスドメインに加えて、コードされているタンパク質にはホメオボックスドメインも含まれる。どちらのドメインも DNA に結合し、遺伝子転写の調節因子として機能することが知られています。この遺伝子は発達中の神経系と眼で発現します。この遺伝子の変異は、無虹彩症とピーター奇形という2つの眼疾患を引き起こすことが知られています。

## 研究分野

## 画像データ



PAX6 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した 3T3-L1 細胞のフローサイトメトリー分析。